

全国弁論大会で優秀賞・文化庁長官賞

太鼓の素晴らしさを より多くの人に 伝えたい。

志賀高等学校2年

宅田 瑛

たくだ あきら



「多くの人に音霊の素晴らしさを伝えたいという強い思いで弁論大会に挑みました。緊張せず練習通りできました。入賞できたことは今だに信じられません」と話す宅田瑛さん。8月4日(休)、宅田さんは小泉町長に全国弁論大会で2位の文化庁長官賞に輝いたことを報告しました。

宅田さんは、小学

校4年から太鼓を始め、「富木神幸太鼓・煌」で活動していま

す。大好きな太鼓のことを多くの人に伝えたいと、昨年からは太鼓がテーマの弁論に挑戦しています。

太鼓の音色には不思議な力が宿っていることを表現した弁論タイトル「音霊 Otodama」。

昨年11月の県大会では最優秀賞・石川県知事賞に輝き、家

族や弁論部の先輩、顧問と力を合わせて作品を手直しし、8月1日・2日に広島県で開催された全国弁論大会に臨みました。

まず、富来の祭り唄から始まり、演壇をたいて太鼓のリズムを奏でながら、抑揚の効いた大きな声でスピーチ。制限時間7分で、太鼓への熱い思いを聴衆に訴えかけました。

小泉町長は「太鼓を通じて、これからも志賀を盛り上げて」と激励しました。宅田さんは「もっと伝えたい事ができれば、来年も弁論大会に出てみたい」と意欲を見せました。

昨年、宅田さんは松田亜美さんとペアで挑んだ女性太鼓打競技加茂大会で、惜しくも1位の座を逃し、悔し涙を流したと、弁論で語っています。

今年もその大会に再び2人で挑戦し、ついに1位の座を獲得しました。2人は嬉し涙を流して、喜び合いました。



応援のため、家族や太鼓仲間も大勢全国大会に駆けつけた。本人も応援者も、幸せを呼ぶざくら貝の色・ピンクのハンカチやズボンに身をつけ、大会に臨んだ。

▶太鼓打加茂大会で大関を獲得し太鼓を披露する宅田・松田組

音霊 おとだま otodama

宅田さんの、太鼓に込める思いが詰まった
弁論の内容を紹介します。（弁論原稿を掲載）

おらがく在所に
みせた〜いものは〜
富来祭り〜 能登金剛〜

これは私の住む石川県能登地方、富来地域の「八朔祭礼」でうたわれる祭り唄です。富来の風光明媚な景色、そしてこの「八朔祭礼」とドンドコの「太鼓のリズム」は、富来者みんなの自慢であり、心のよりどころです。皆さんも地元の祭りばやしや太鼓など、小さい頃から耳にしているリズムは、いつ聞いても心地よく、懐かしく思え、そして、心に響く「何か」を感じたことがあるのではないのでしょうか。

出してきました。でも、泣いていたのは、私だけではありませんでした。相方やチームメイト、父や母、その他日々私を応援してくれている本場にたくさんの人たちも、「おまえっちゃんの太鼓聞いとつたら鳥肌立つたぞ」「瑛の太鼓、ホント、感動したよ」と言葉をかけてくれました。

それが、太鼓を通じて得ることができた、たくさんの人との「心のつながり」、太鼓が創り出す「心の絆を感じた瞬間でした。人間は古より、魂を高揚させたい時、気持ち奮い立たせたい時、太鼓を打ち鳴らしてきました。祭礼や神事では、神様と交信するための道具として用いられ、その神聖なる太鼓の音色は、聞く者、叩く者の心を震わせ、魂を揺さぶり、底知れぬエネルギーを湧き起こしてきました。

言葉に宿ると信じられている「霊的な力」を「音霊」というように、太鼓の音色にも「音霊」という、不思議な力があると私は信じています。

私は、その不思議な力を、東日本大震災で被災された宮城県女川潮騒太鼓轟会の方々との交流会の際にも感じました。私の

地元の太鼓イベントでは、お互いのリズムを一つの太鼓で打ち合いました。初めて会ったばかり、太鼓のリズムも違うのに、まるで昔からの仲間だったかのような一体感がそこにはありました。

太鼓のもつ不思議な力、音霊は、人と人との絆を深めます。そして、その絆は、地域の温かいコミュニティを作っていくことにつながっていきます。

ただ、現在はその温かいコミュニティを維持しなくても住民の都市部への流失が止まらず、全国の全自治体の4割以上が、過疎地域に指定されています。私の住む「能登」も例外ではありません。

私は、なんとかこの過疎化に歯止めをかけたかと考え続けます。そのヒントはやはり太鼓の音色、音霊にありました。「ドンドコ・ドンドコ…」この音を聞くと、能登の出身者は都会から神輿やキリコを担ぐために帰郷します。日々の仕事は田舎にはありません。でも必ずその時には、田舎に帰ってくるのです。

これは、まるで8千年前に人類の祖先が太鼓に似た楽器を打

ち鳴らし、喜びを表現したように、私たちのDNAのどこかにも組み込まれているのかもしれない。

私は、いつか地元の増穂浦海岸で、太鼓フェスティバルを開催したいと思っています。「さくら貝」が打ち寄せる美しい海岸に、日本中から太鼓打ちを集めて、ふるさと能登の空に生命の鼓動を響かせることができたら、どんなに素敵なことでしょうか。

ち鳴らし、喜びを表現した

ように、私たちのDNA

のどこかにも組み込まれているのかもしれない。

私は、いつか地元の増穂浦海岸で、太鼓フェスティバルを

開催したいと思っています。「さくら貝」が打ち寄せる美しい海岸に、日本中から太鼓打ちを集めて、ふるさと能登の空に生命の鼓動を響かせることができたら、どんなに素敵なことでしょうか。

女川の方も「自分たちが太鼓を打つことで、少しでも震災復興に貢献したい」と被災地と全国各地をつなげたように、私も太鼓で、地域のつながり、絆を深め、温かいコミュニティをつくり出していきたいのです。

たくさんの方が、笑顔で、音霊を感じ合えばきっと、地域を、そして日本を、盛り上げていけると

思います。

私はこれからも太鼓の練習に励みます。「音霊」の限りない力を信じて。

を信じて。

The 29th Japan Tent Report! in Shika

世界留学生交流・いしかわ2016



さくら貝細工
料理体験



対面式

今年で第29回目を迎えたジャパント。志賀町にも、オーストラリア、台湾、タンザニア、中国、ベトナム、ラトビアの6カ国から7人の留学生が訪れ、4家庭（ホストファミリー）で、8月18日から21日の4日間、ホームステイを体験しました。

留学生の皆さんが一人ずつ自己紹介をして、4日間を共に過ごすホストファミリーと握手を交わしました。

富来活性化センターで留学生とホストファミリーとの体験交流会が催され、志賀町特産の「さくら貝」を使った工作や、志賀野菜をふんだんに使った郷土料理作り挑戦、出来上がった料理を囲み、参加者全員で食事を楽しみました。

20日は終日ホストファミリーの皆さんとの交流を深め、21日のお別れ式には、参加者の良き思い出となった事への充実感であふれていました。

グッドマナーキャンペーン

全ての大人が子育てを

青少年の公共マナーや交通ルールなどに対する規範意識の向上を目指し、今年も「小・中高生グッドマナーキャンペーン」が行われます。

志賀町では、9月21日（水）～30日（金）中の平日のうち、4日間をキャンペーン実施期間として、学校、PTAをはじめ、各種団体にご協力をお願いしながら、青少年への声かけ運動・交通マナー指導を行います。

秋の交通安全運動の街頭指導時に併せ、登校・下校時の子どもたちにあいさつ・声掛けをします。皆さんの温かいご協力をよろしくお願いいたします。

グッドマナーしていますか

小・中・高校生の皆さん、グッドマナーしていますか。ポイ捨て防止や座席の譲りあい、あいさつなどの『マナー』について、今一度振り返ってみませんか。ほんの少しの勇気で、もっと素敵なあなたになれるはず。

文芸教室

西浦川柳会

月例句周りに散らかる書き損ね 隠す嘘みんな嘘だと出る誠 吐いた嘘吞めずに最後は辞職する 嘘がない罪がないよとマスメデア 又しても嘘を見抜けず丸められ ミミズ違う様な字を書きこの日まで 政治家は嘘と金とで票集め 年賀状書いたら友の訃報来る 書く時代終わって電話やメール打つ 話好き嘘も交えてはずむ声 嘘ばれて言い訳するのに四苦八苦 七夕に願いをくめて書いてみる	古森 真猿 林 ちよ子 高島 和子 柴田 政行 芝山 照子 池田 洋子 赤崎 がな みやみちがし 西尾 海春 小松 康子 三井かほ里 川上 富子
新盆や祖母の遺せし車いす 投票を終えて見上げる空の青 塩加減忘れた頃に梅漬けて 老ゆるとも仏具みがきて盆を待つ 廻る寿し一番皿の鰻を食う 新盆を迎えし友を偲ぶ会 亡き父母の年を越えたり三姉妹 祠堂に集いて過ぎし日偲びぬ 今年又猛暑と成るや昨日今日 肥えし我が身は日々地獄なり 朝つゆの淡き玉のせ蓮の花 涼しき誘い佇み見ゆる 落ちたヒナ巢に戻すのはわが夫なの 得意気笑みの隣の妻言う	エミ子 上野 末子 ク まつい 浅子 さちこ 智子 光雄 志津江 松本理希三

「文芸教室」に掲載する作品を募集しています。短歌、俳句、川柳については一首（一句）として送付ください。紙面の都合上、掲載できない場合もありますのでご了承ください。

■宛先／〒925-0198志賀町末吉千古1-1 志賀町教育委員会 生涯学習課まで ※毎月3日までにお願いします。

堀松綱引き祭り

7月17日(日)、今年が豊漁か豊作かを占う神事「綱引き祭り」が堀松の住吉神社であり、住民が綱を引き合った結果、山方が勝利し、今年は豊作となりました。

主催者の堀松青年団が80mの縄を神社前に担ぎ出し広げると、住民が一斉に飛び付き、引き合い開始。前半は海方が優勢でしたが、最後は山方が一気に引きました。そのほか、神事相撲や志賀天友太鼓による奉納太鼓もありました。

綱は堀松青年団が毎年編み上げ、綱引きの後、来年行う神事相撲の土俵に使われます。祭りは1767年に始まったとされます。



西海祭り

8月14日(日)、豊漁と海上の安全を祈る「西海祭り」が西海地区であり、西海風無、西海風戸の神輿と大小14基のキリコが地域内を練り歩きました。女衆は浴衣に白のエプロンと赤い腰巻き姿でキリコを担ぎ、男衆に負けじと「さーせ」と声を張り上げ、荒っぽくキリコを揺らしました。

担ぎ手不足の解消と伝統文化の発信のため始まった体験ツアーには、大学生ら36人が参加し、伝統の祭りを体感しました。昨年、留学中に西海祭りを体験したオーストリアのティファニー・バンダムさんは、友人3人と来日。「去年体験した西海祭りは一番の思い出。今年も伝統の祭りを体験できて嬉しい」と話しました。

去年、留学中に西海祭りを体験したオーストリアのティファニー・バンダムさんは、友人3人と来日。「去年体験した西海祭りは一番の思い出。今年も伝統の祭りを体験できて嬉しい」と話しました。



輪踊り



2016年
志賀町祭

西能登やつちや祭り



上野区によるおしょうらい



一般の部・優勝「西山台の愉快的仲間たち」



志賀の太鼓



富来小5・6年鼓笛隊



きらきら Kids



志賀っ子4年109



7月31日(日)、千鳥ヶ浜海岸で西能登やっちゃ祭りを開催しました。

ステージでは、小学校の鼓笛隊や合唱がオープニングを飾り、中学校吹奏楽部の演奏や、きらきらかidsによるダンスが披露されました。また、地元バンド・ノンポリシーやホライジックのライブが会場を盛り上げました。

綱引大会では、23チームが出場。大雨に見舞われ一時中断しましたが、どのチームも優勝を目指し、熱い闘いを繰り広げました。

テント市は、14団体が出店。さまざまな食を提供し、大盛況でした。

フィナーレはステージを浜辺に移し、10mある松明3本を燃やしました。炎を背に、地元太鼓の響きとよさこいの演舞に、大勢の観客が見入っていました。

クライマックスでは、1千発の花火上がり、夏の夜空を彩りました。



石川県民 体育大会



テニス



ゴルフ



ソフトボール



武術太極拳



相撲



柔道



綱引



水泳

8月6日(土)・7日(日)の両日、能美市を主会場に石川県民体育大会夏季大会が開催されました。

当町からは、30競技・600人余りの選手が参加し、男子総合13位、女子総合10位の成績を収めました。当町は、この成績と参加競技数が増えたことで、スポーツ奨励賞を受賞しました。

出場した選手団の皆さんお疲れ様でした。大会の上位入賞種目は次のとおりです。

【団体種目】

- 優勝 綱引 (一般女子)
- 第2位 レスリング (一般男子)
- ゴルフ (壮年男子)
- グラウンドゴルフ (一般男子、壮年女子)
- 綱引 (一般男子)
- 第3位 ソフトボール (一般女子)
- グラウンドゴルフ (一般女子)

【個人種目】(敬称略)

- 陸上競技
 - 一般男子走高跳 2位 加茂野健太
- 水泳
 - 一般男子背泳ぎ 優勝 池端 久泰
- 相撲
 - 壮年の部 優勝 奥田 純一
- レスリング
 - 57kg級 優勝 安中 友茂
 - 61kg級 3位 西村 清正
 - 65kg級 3位 大垣内 毅
 - 74kg級 2位 山下 勝
 - 86kg級 3位 宮崎 将徳
 - 97kg級 2位 永谷 悟史
- ゴルフ
 - 壮年女子 優勝 川畑 美雪
- パワーリフティング(公開競技)
 - 66kg級 2位 北 芳一